

2025年3月23日

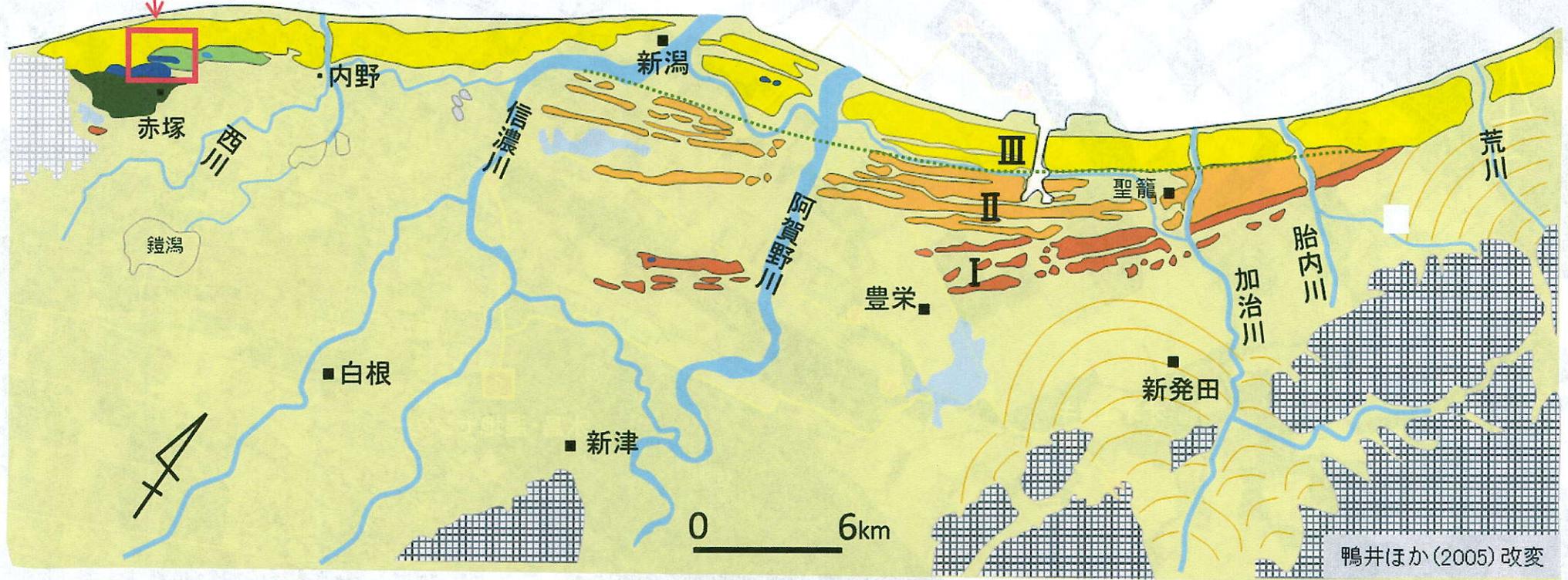
新潟砂丘遊々会+新潟市湿地都市研究所共催砂丘ウォーキング(オーソックスコース)

案内人: 澤口晋一(新潟国際情報大学)



今回歩く範囲

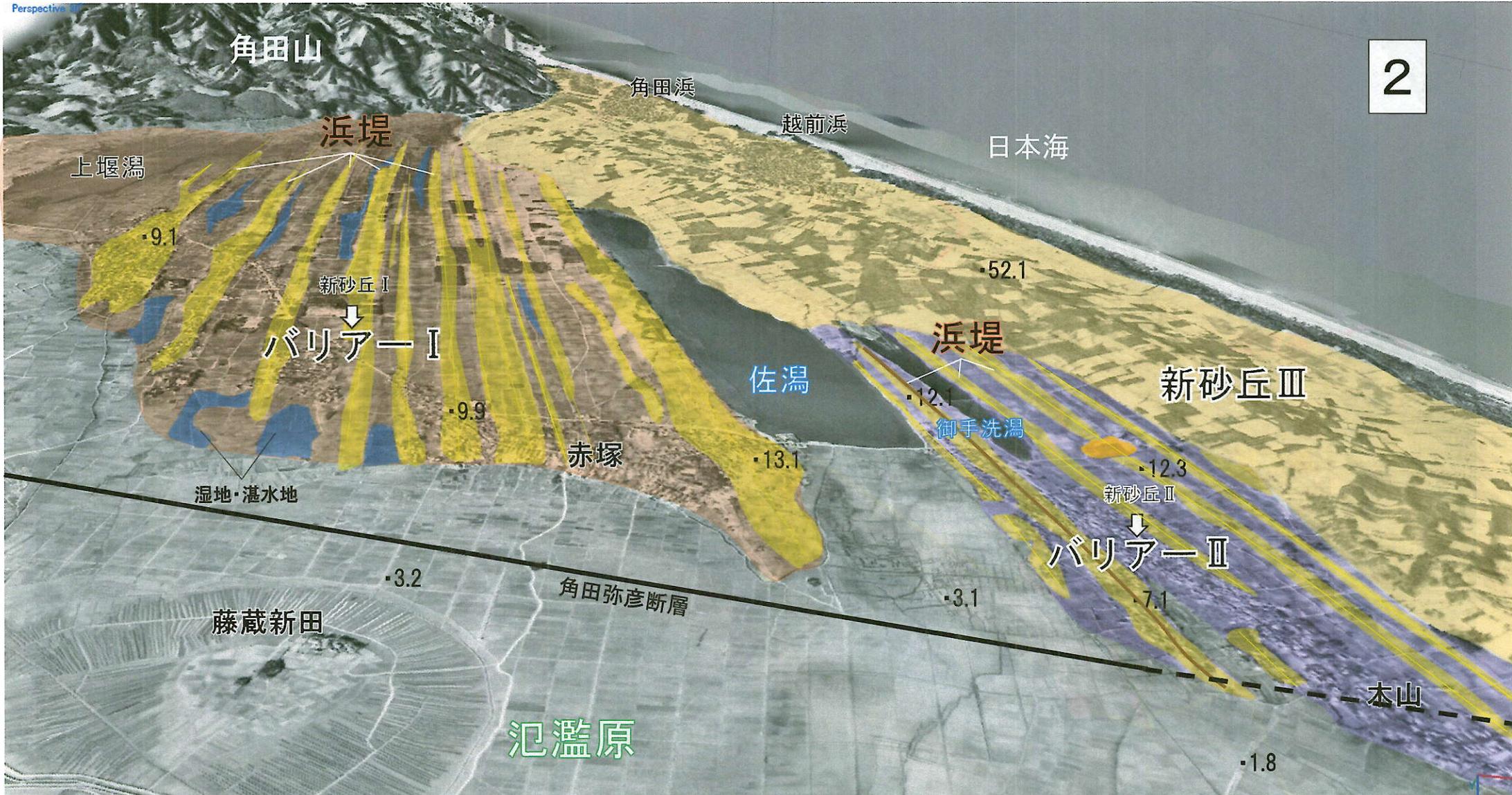
1

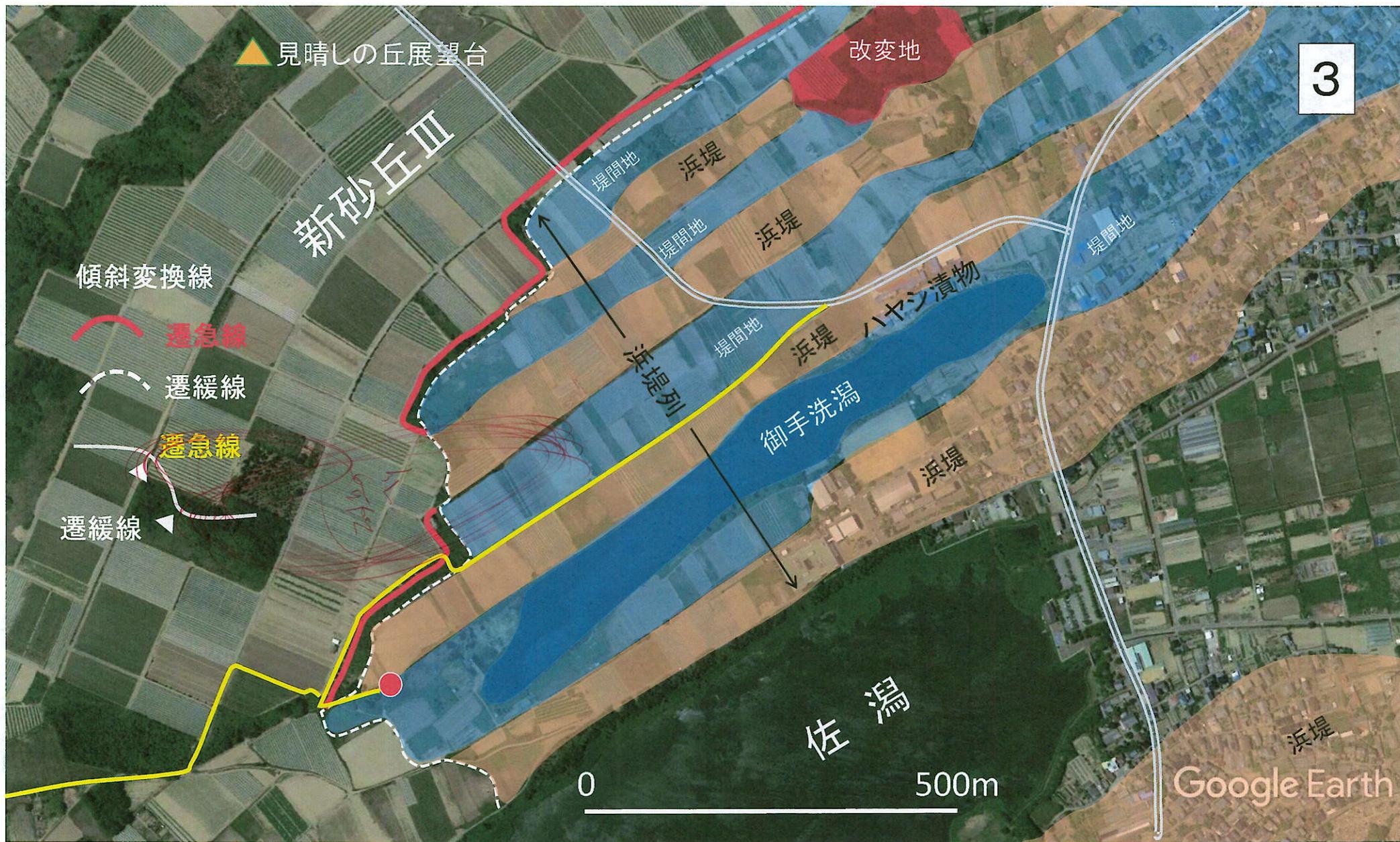


鴨井ほか(2005) 改変

- 新砂丘 I (7600～4800年前)
- 新砂丘 II (4600～1400年前)
- 新砂丘 III (1800～900年前)
- バリアー I
- バリアー II
- 山地・丘陵
- 扇状地

新潟砂丘(砂層地形)の分布と形成期







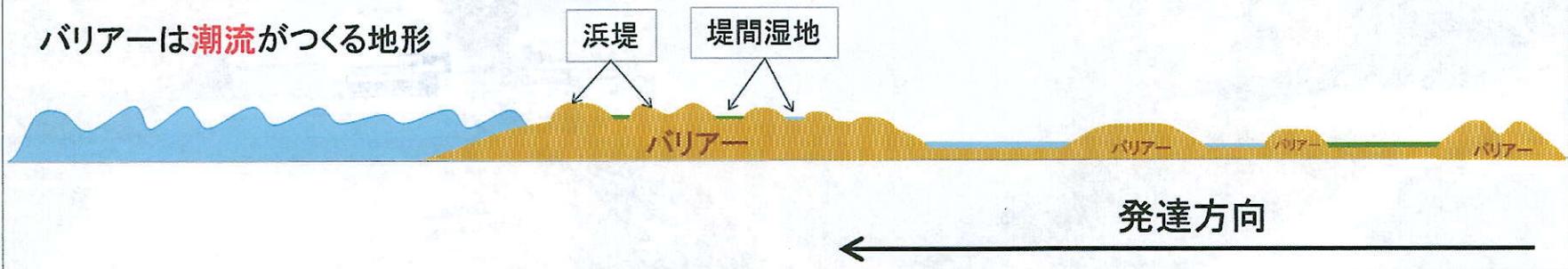
砂丘の成因

砂丘は風がつくる地形
= 風成地形

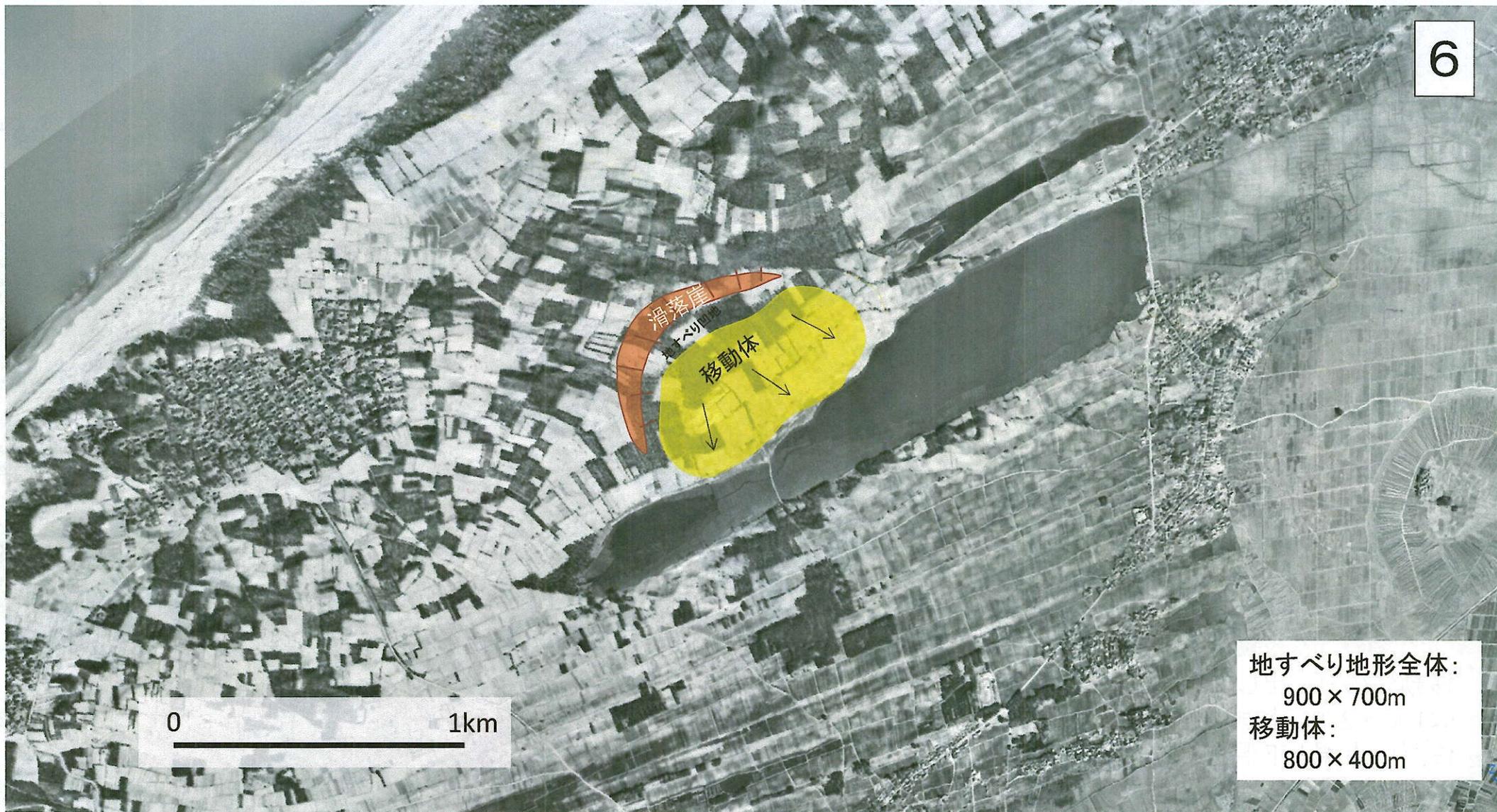


バリアーと浜堤の成因

バリアーは潮流がつくる地形



佐潟北岸の地すべり地形



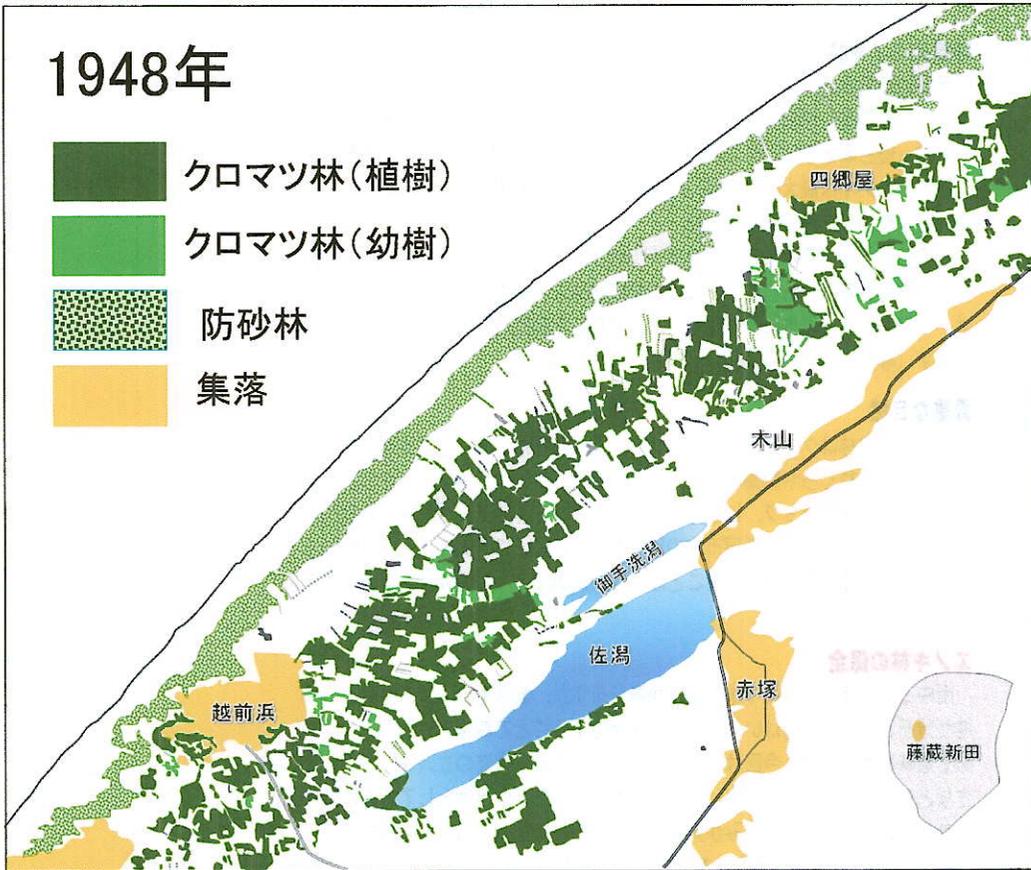


移動体の押し出しによって佐潟北岸の湖岸線は180~200m南側にせり出した。これによって佐潟は上潟と下潟とに2分された

1km

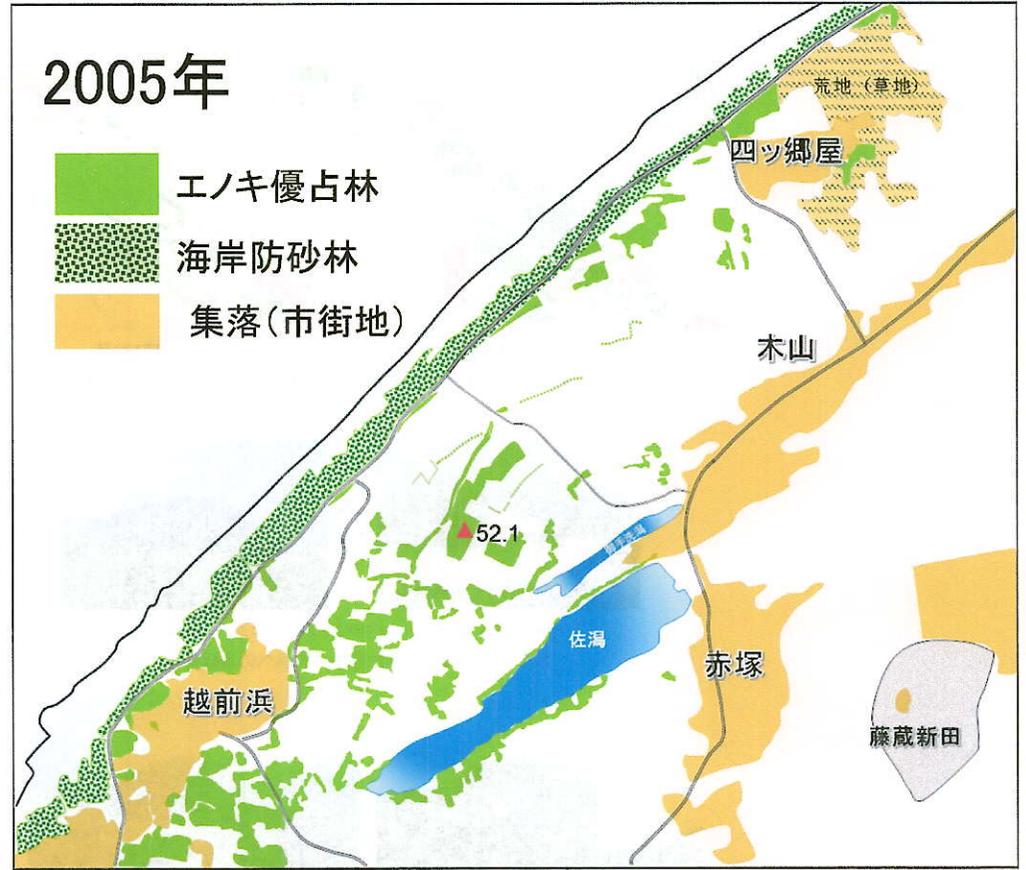
1948年

- クロマツ林(植樹)
- クロマツ林(幼樹)
- 防砂林
- 集落



2005年

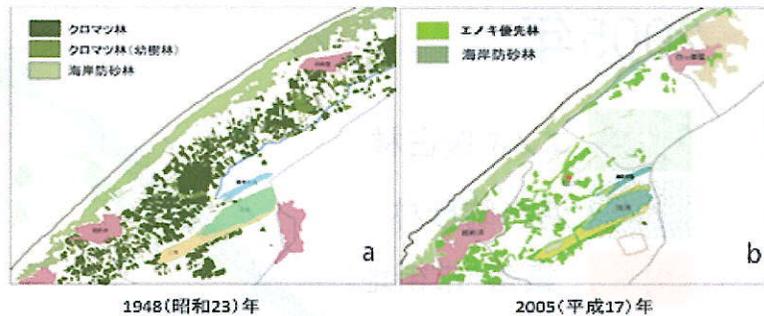
- エノキ優占林
- 海岸防砂林
- 集落(市街地)



！まじりあふれあふれあふれあふれ

新潟市西区赤塚のエノキ林

新潟砂丘遊々会*



1948(昭和23)年 2005(平成17)年
図1 赤塚地域のクロマツ林からエノキ林への樹種変化とその分布



右中景の高まりが2004年ではクロマツ林であるが、2015年にはエノキ林となっている。

写真1 クロマツ林からエノキ林への景観変化



「オオエノキ」

赤塚エノキ林の主、王者の風格。

「気になる樹」

水鳥・湿地センターからみると2本の保存樹が丸いこもりとした1本の樹に見えます。なんと新幹線の車窓からも見えます。

保存樹には愛称があります！

砂丘のエノキ林

赤塚地域の砂丘上にはかつてクロマツ林が広がっていました(図1 a)。

しかし、現在、クロマツ林は完全に消滅し、ほぼ全体が落葉広葉樹であるエノキ林(優占率85%以上)に置き替わっています(図1 b)。調査の結果、この地域のエノキは最大級の直径・樹高をもつものでも樹齢が36年前後で、40年を超えないことがわかりました。

このことから、赤塚地域ではクロマツ林からエノキ林への置換は1980年前後に生じたと考えられます。クロマツ林は植林による人工林ですが、エノキ林は、クロマツの衰退後に自然更新により定着した自然林であることが大きな特徴です(写真1)。

貴重な自然

落葉広葉樹林はクロマツなどに比べて、種の多様性が高く、昆虫類の食用として、鳥類のねぐらや繁殖場所としての機能をもつほか、特にエノキはオオムササギ^{**}、ゴマダラチョウ、ヒオドシチョウ、シータテハといった蝶類の食草としても重要な樹木です。新潟市内の砂丘地において、こうしたエノキ林がみられるのは、赤塚地域のみであることから、新潟市にとっても非常に貴重な自然といえます。

エノキ林の保全

街中での保存樹はその1本に価値がありますが、赤塚地域のエノキ林は、林地が分断されているとはいえ、林全体を保全することで森林の生態系として初めて意味を持ちます。今回は、このエノキ林の中から容姿の立派さ、樹高・大きさなどの点において特に際立ったもの3本が新潟市の保存樹として新たに登録されましたが、この3本のみが大事なわけではありません。もっと大事なのは「赤塚エノキ林」とでも言うべき、エノキ林全体とその保全です。

砂丘遊々会では、今回登録された3本のエノキを赤塚地域のエノキ林の象徴的存在として捉え、保全活動を続けていきたいと考えています。

* 新潟砂丘遊々会は、西区赤塚地域の方々と新潟国学院大学の教員有志とが一緒になって、新潟砂丘の魅力と価値を、ウオーキングを通して多くの人たちに発信するために結成されました。
** 本地域においては未確認

新潟市 樹木マップ

Niigata City Heritage Tree Map



マップ片手に樹木巡りしてみませんか？

新潟市では、市内に残る優れた樹木・樹林を保全するため保存樹等の指定をしています。「新潟市樹木マップ」では、こうした貴重な保存樹等の他、国・県・市指定の天然記念物の樹木、その他の巨木・名木・街路樹などをマップ形式で紹介しています。

優れた樹木を見つけた時は撮影もおすすめです。

新潟市

令和3年11月発行



「気になる樹」と名付けられたエノキの下車刈りに励む新潟砂丘遊々会のメンバーら

沼口さんは「エノキの自然林は、市内の砂丘地では赤塚地域にしかない。昆虫や鳥にとって重要な自然であり、保全を続けることが大切」と強調する。新潟砂丘遊々会はエノキを保全する

2019年に新潟市の保存樹に指定された3本のエノキの大きな木があると聞き、訪ねてみた。このうち1本は「大エノキ」と呼ばれ、指定時点の樹高が14m、幹回りには2・4mそこから徒歩数分の所に気になる樹という愛称で樹高12・13m、幹回り2・2×2・3mの2本が並ん

で立つ。3本の樹齢は40〜50年ほどとみられる。幹からは太い枝が何本も伸び、風格がある。真夏でも木陰は涼しい風が通り抜け、心地よく感じられた。エノキ林の保全活動に取り組む新潟砂丘遊々会のメンバーで、新潟国際情報大教授の澤口晋二さん(63)は自然地理学IIによると、この一帯は、かつて植林によるクロマツ林だったが、松くい虫の被害などで枯れ、1980年頃にエノキ林になったという。

佐潟近く気になる存在 「大エノキ」など (西区) 水鳥の生息地として国際的に重要な湿地「佐潟」がある新潟市西区の赤塚地区は、広大な畑が広がる砂丘地に、落葉広葉樹のエノキ林が点在している。



見事な枝ぶりの大エノキ=新潟市西区

NIIGATA CITY
JYUMOKU MAP
新潟市樹木マップ

樹木～長い間、地域のみなさまが育ててきた、宝もの

長い歳月をかけて育った貴重な樹木や樹林は、景観にも優れ、私たちにかけがえのない財産です。新潟市では、市内に残る優れた樹木・樹林を保全するため保存樹等の指定をしています。また、名木・巨木・老木の樹木のうち、特に貴重なものは天然記念物として、文化財保護法や県・市の文化財保護条例で保護されています。「新潟市樹木マップ」では、こうした貴重な保存樹、保存樹林、国・県・市指定の天然記念物の樹木、その他の巨木・名木・街路樹などをマップ形式で紹介しています。

長い間、地域のみなさまが育ててきた宝ものである樹木を、身近に感じてみませんか。

ようこそ、新潟市へ

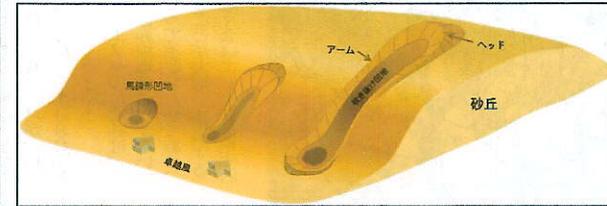
パラボリック砂丘



現存パラボリック砂丘の状況

単位:m

	吹き抜け 凹地長	凹地底 幅	凹地 深さ	備考
①	130	15	10	谷口盛土平坦化 上部約80m欠落
②	80	35	14	上部約50m欠落
③	165	40	16	谷底に盛土平坦化
④	100	40	9	谷口及び底部に盛土 平坦化
⑤	210	15	10	谷口付近に道路施設
⑥	300	85	20	谷底盛土平坦化



パラボリック砂丘の形態



パラボリック砂丘は冬の季節風によって砂丘の砂がえぐれるように吹き払われることで形成されたU字状の平面形をもつ凹地のことです。

土地改良事業が行われる以前は、左上の写真の範囲だけでも30あまりのパラボリック砂丘（U字型凹地）が存在していましたが、現在は完全な形のものはありませんが、部分的に形態を留めているものが6つあります。

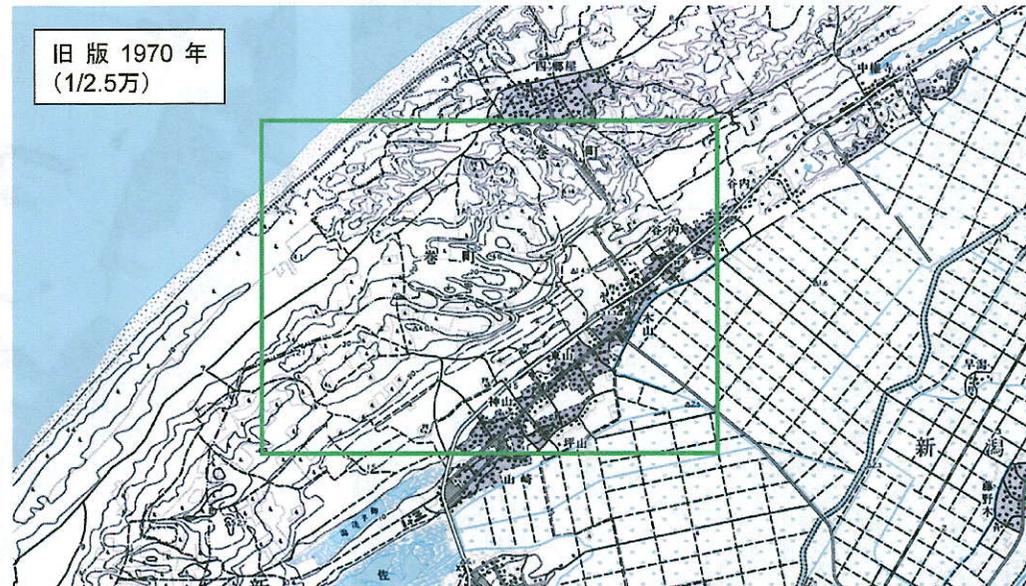
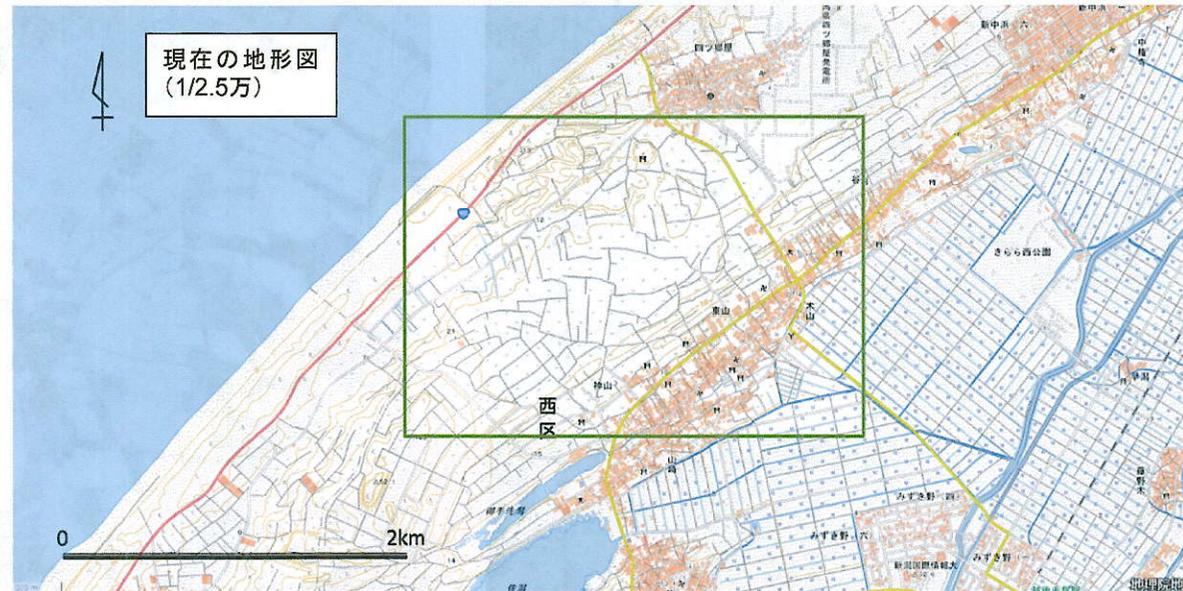
← ①のパラボリック砂丘

体力勝負の オプションウォーキング： 「～失われた時を求めて～」

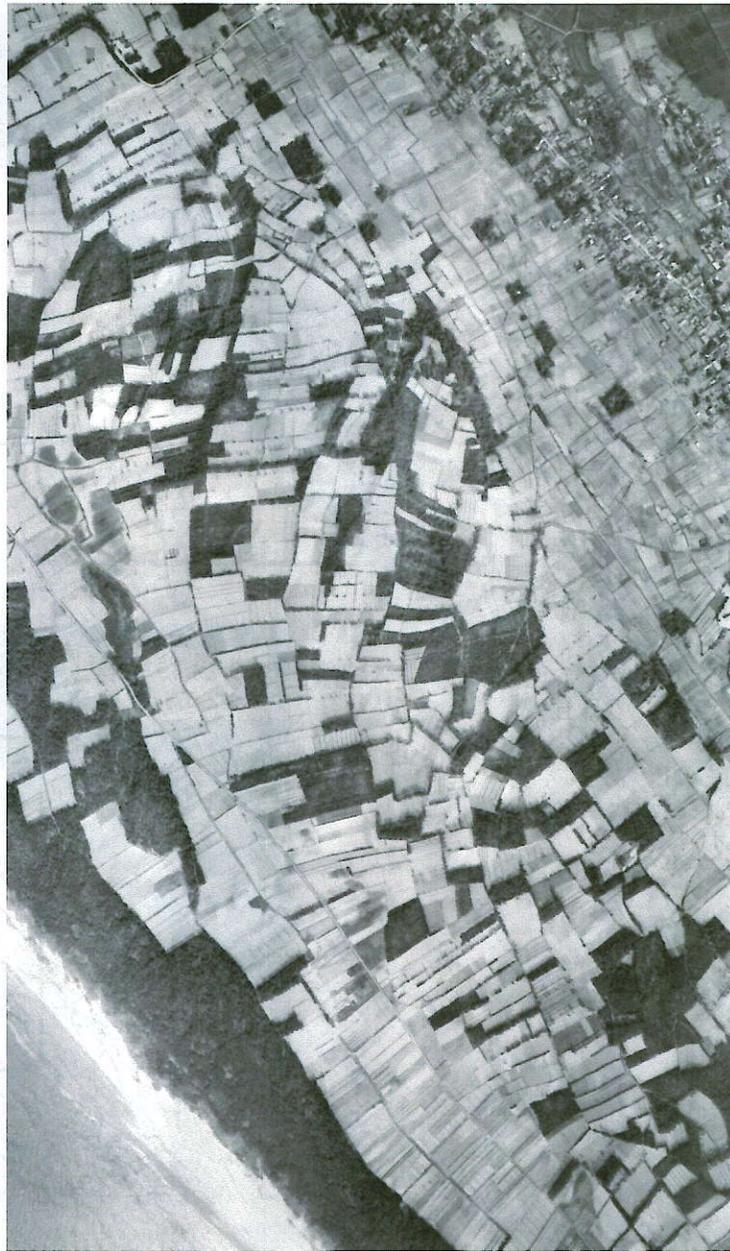
現在の地形図(上)1970年発行の旧版地形図(下)とを比べてみてください。畑にするための土地改変によって、本来あった起伏がほとんどなくなり平坦化されてしまっていることがわかります。

この土地改変によって「パラボリック砂丘」が完全に消失しました。ここには新潟砂丘中最大のパラボリック砂丘が存在していたのです。下の旧版地形図の緑の枠線の中には西から東方向に等高線が袋状に描かれているところがありますが、それがパラボリック砂丘です。ここでは、このパラボリック砂丘をその地名にちなんで「東山パラボリック砂丘」と呼びます。これを見たかった！！

ああ・・・残念なんてもものじゃあない、悔しい、実に悔しい！！「失われた時(地形)を求めて」歩きます。

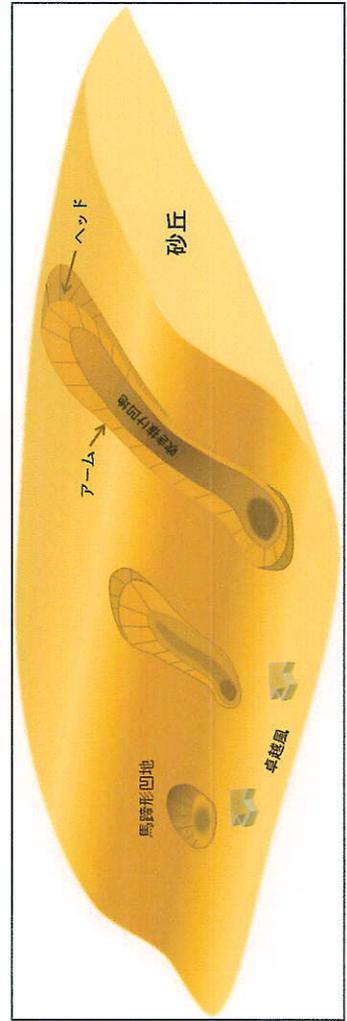


100



Op2

Op3



890

